

エルツおもちゃ博物館・軽井沢 2025年 春夏展 「想いをつたえるミニチュア展」

プレスリリース

～エルツ地方のおもちゃ工房をたどって～（後期）

会期：2025年6月11日（水）～2025年10月13日（月）

ドイツ・エルツ地方は、木のおもちゃ作りで世界的に有名な地域です。「おもちゃの町」として名高いザイフェンをはじめ、オルベルハウやドイチョイドルフなど、木のおもちゃ作りを営む地域が多くあります。

エルツ地方のおもちゃ工房では、「くるみ割り人形」や「パイプ人形」といった伝統的なおもちゃの他に、多彩なミニチュアも制作されています。本展では、ミニチュアに焦点をあて、おもちゃ職人の技術と、おもちゃ制作にこめた想いやこだわりを紹介しています。

例えば、ライヒセンリンク（Leichsenring）工房では、春にぴったりの「花」のミニチュアが制作されています。ライヒセンリンク工房は、1904年にエミール・ライヒセンリンクが創業した工房です。エミールの息子エーリッヒが工房を継ぐと、より親しみのある「生誕」や「イースター」にくわえ、工房の看板商品にもなっている「花」のミニチュアが生み出されました。この「花」のミニチュアを孫娘のギッタがさらに発展させています。ライヒセンリンク工房では、親子で作品を受け継ぎ、守りながら現在まで伝えています。

1933年に創業のエミール・ヘルビツ工房は、木彫りのミニチュア制作が特徴的です。作品は全て手彫りで制作されており、動物の筋肉なども巧みに表現され、今にも動き出しそうな印象をうけます。ヘルビツ工房が大切にしている「手彫りにしかできない表現をする」という理念が、ミニチュアから伝わってきます。

ミニチュアがつくる世界を楽しみながら、エルツ地方のおもちゃ工房を知る機会になれば幸いです。



▲お花屋さんのミニチュア、はちみつ屋さんのミニチュア、花の木／FLADE



▲ライヒセンリンク工房のミニチュア

【企画展概要】

タイトル	2025年春夏展「想いをつたえるミニチュア展 ～エルツ地方のおもちゃ工房をたどって～」（後期）
会期	【後期】2025年6月11日（水）～2025年10月13日（月）
場所	ムーゼの森 エルツおもちゃ博物館・軽井沢
開館情報	◆開館時間 【6月～10月】9：30～17：00 ※最終入館は閉館の30分前 ◆休館日 火曜日 ※7月～9月は無休 ◆入館料 大人800円、中・高生550円、小学生400円、小学生未満無料 【軽井沢絵本の森美術館とのセット券】大人1,500円、中・高生1,000円、小学生700円、小学生未満無料

展示の見どころ

ヘルビツヒ工房 小箱のおもちゃ



1944年1月6日、私はノルマンディーのバンカーで、その小箱を受け取りました。戦争の絶望の中で、この小箱の光景は平和への憧れを象徴する、一筋の希望の光でした。もう50年前のことですが、今この小箱は、手にする人に、再び希望と幸運と喜びを与えるはずです。

▲小箱のおもちゃ（左）、小箱についているメッセージカード（中央）、メッセージカードの翻訳（右）

エミール・ヘルビツヒ（Emil Helbig）工房は、1933年に、エミール・ヘルビツヒによって創業されました。1949年になると、エミールの息子・ヴァルターが工房を引き継ぎ、小箱のおもちゃを制作しました。

この小箱は、戦時中にエミールがヴァルターに送ったおもちゃを再現したものです。ヴァルターは、この小箱に勇気づけられ、自身でも作り始めました。小箱には、ヴァルターの想いが綴られたメッセージカードがついています。

「喜び」を伝えるフラーデのミニチュア

フラーデ（FLADE）工房は、エルツ地方のオルベルハウにある工房です。フラーデでは「喜び」を最も重要な価値観としています。工房で働く職人たちの喜び、ミニチュアをつくる喜び……。そうした「喜び」から生まれるフラーデのミニチュアは、夢のような世界を私たちにを見せてくれます。

フラーデのミニチュアの特徴は髪の毛です。髪の毛には「亜麻」が使われています。乾燥させた亜麻を梳（す）き、繊維を取りだします。

それを束ねてカットし、ミニチュアの頭部に被せます。丁寧に作られたこの髪の毛が、唯一無二の存在感を与えています。



▲フラーデ工房のミニチュア

【お問い合わせ先】

ムーゼの森 エルツおもちゃ博物館・軽井沢 【TEL】0267-48-3340【E-mail】info@museen.org
〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉 193-3（ムーゼの森） FAX：0267-48-2006
企画展特集サイト <http://museen.org/event/>